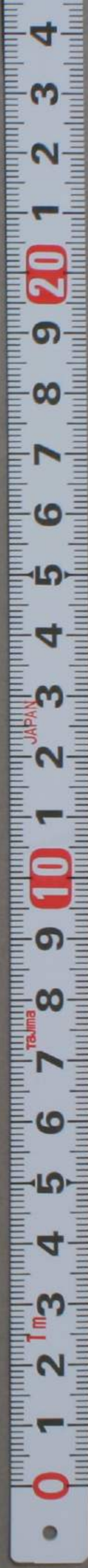


博物教授書

片山淳吉解

2800
1



門三
治 2800

月 六 第 年 九 治

小野職懋閱
片山淳吉解

270
50
6

卷一

文部新刊
小學懸圖
博物教授書

東京書肆
錦森堂發兌

早稻田大學圖書館
照 273-1
藏書



植
指
南
學

手切文...

鍼

紀元二千五百廿六年三月
廿七十三日 築三月廿日
伊藤圭介 應需題



博物教授書緒言
一日客リカ茶談偶學事ニ及テ客曰頃吾博物學ノ名
ヲ聞キ未其學ノ何物タルヲ知ラス敢テ問フ如何ナル
モソ以答曰曰ク泰西之ヲナララルヒストリト曰ヒ
允ソ兩間萬物ノ形質ヲ類別シ其異同ヲ徴シテ之ヲ辨
スルノ學ナリ蓋歐米各國兒童ヲ教育スルニ語學經學
等ノ外別ニ三科ノ學ヲ立ツ一ヲ博物學ト曰ヒ二ヲ物
理學ト曰ヒ三ヲ化學ト曰ク其之ヲ講習スルノ次序亦
之ニ從テ教育ノ法至レリ此謂ハハ妙是ニ由テ之ヲ觀
レハ博物書ニ就テ物ヲ辨知スルハ物理學ノ入門ニシ

テ物理學ハ化學ノ階梯ト謂テ可ナラム歟、能、此學ヲ究
ムレハ造化ノ妙用日用事物ノ理ニ於テ知フサルモノ
ナク通セサルモノナリ、故、博物學ヲ舍テ遽カニ物理ヲ
究ムトスルハ、譬へハ猶階ヲ捐テ樓ニ登ラムトスル
カ如シ、何ニ由テ高所ニ至ルヲ得ムヤ、是ヲ以テ博物ノ
書ハ必先、學ハサル可クテサルナリ、客但客ハ某縣下師範
學校ノ教員ナリ茶
杯ヲ措キ側ヨリ文部新刊ノ博物圖ニ幅ヲ出シ、余ニ示
シテ曰ク此圖ハ乃、動植ノ二物ナリ、之ヲ觀ルニ獸類一
覽ハ一々略解アリト雖モ此第、博物圖ニ唯ニ草木ノ
花葉根幹及其形狀ノ名稱ヲ載セタルノミ、恐クハ教導

ノ便ニアラサラム、請フ之ヲ示ヒ、答曰ク此圖、
出ス所ニ、即、
三月又撰者ノ氏名ヲ載ス、故、其上旨トスル所
撰者ニ就テ問ハリレハ知ル可クナムト雖モ圖面上
層ノ略説ニ言ルカ如ク植學入門ノ階梯ナレハ單ニ葉
花根ノ形狀ヲ類別スルモノナラム、故此圖ニ就テ其形
狀如何ヲ説明シ其類ヲ概シテ何々狀ノ葉或ハ花ナリ
ト教レハ則、足ラズ、幸、撰者小野氏ハ我學友ナリ、居
宅モ亦遠カラズ、他日質問ノ後、詳カニ之ヲ告ケ、客
又曰ク然ラズハ則、伺氏ニ謀リテ獸類ニ體裁ニ致シ
之カ略解ヲ作ラハ獨、我輩ノ幸トスナラズ、天下學童ノ

知識ヲ廣ムル心鮮少ナラス、請フ之ヲ勉メヨト慈惠シテ止マズ、然レモ余ヤ既ニ物理階梯後篇ノ緒ニ就クヲ以テ單身其稿ヲ草スルノ暇ナレ、故ヲ以テ荏苒日ヲ過ク、偶學友中邨氏來訪ス、因テ同氏ニ謀ルニ欣然唯諾ス、是ニ於テ相與ニ集解シ、稿既成テ小野氏ノ檢閲ヲ請ヒ題シテ博物教授書ト曰フ、其蒙ヲ啓キ智ヲ廣ムルノ事ニ於テ幾クハ小補アラム乎、今其由ル所ヲ記シテ以テ緒言ニ代フト云フ、

明治九年第三月

片山淳吉誌

高木春園書



凡例
一 此書專ラ童稚ノ解シ易キヲ主トスルモ、凡學科専門ニ係ルヲ以テ名稱俗用ノ字ニ異ナルモノ多シ、故ニ卷末ニ字引ヲ附シ以テ童蒙ノ便ニ供ス、又余輩ノ加フル略解ハ○ヲ附シ以テ原圖中ノ語ト混同セサラシム、一 此書集解スル所ニ々引用ノ書アリ、必スシモ漫リニ私意ヲ加ヘズ、或ハウヰルソシ氏所著第四リト下ル草木ノ部ヨリ鈔譯スルモノアリ、或ハ本草啓蒙成形圖說、日本產物志等ヨリ技藝スル者アリ、看者疑フ勿ク、一 花ノ開凋果實熟スル等ハ皆陽曆ニ改メ蓋シ人

心ノ舊慣ヲ一洗センガ為ナリ、
 一卷末ノ字引ハ學童ノ至便ヲ主トシ、字形原圖ニ從テ
 字畫ヲ改メス、又音ニテ讀ムベキハ今日ノ常呼ニ從
 ヒ假名ヲ右傍ニ附ス、必シモ漢吳ノ兩音ヲ分チ或ハ
 轉訛音ヲ正サ、ルナリ、例ハ穀物内長部等ノ如シ、
 又訓ニテ讀ムヘキハ左傍ニ和訓ヲ施シ、字下ニ音ヲ
 附ス、又余輩ノ淺解中ノ文字ハ▲ヲ附シ以テ之ヲ分
 別ス、
 第一卷中ノ穀物、菹豆、葷辛、海藻等ハ國々ニ於テ名稱
 同シカラズ、因テ童兒ノ誤リ謬メムトテ恐レ、今東西

或ハ南北國ノ方言一ニテ字引中ニ附シ各土ノ兒童
 ヲシテ通曉シ易クシム、
 一書肆ノ從責太、急ナリヲ以テ僅カニ二週日ニ至ラス
 シテ業ヲ卒フ故、恐クハ謬誤ナキ能ハス、讀者幸ニ之
 ヲ正セ

卷之三

和物類考

卷之二

和物類考

卷之一

和物類考

和物類考

片山淳吉

識

中邨健藏

博物教授書目次

| | | | |
|--------|-----------|----|----------|
| 卷之一 | 第一、第二、博物圖 | 合冊 | 植物第一、全第一 |
| 卷之二上 | 第三、第四、博物圖 | 合冊 | 植物第三、全第四 |
| 卷之二下 | 第五、博物圖 | 一冊 | 植物第五 |
| 卷之三 | 獸類及鳥類一覽 | 合冊 | 動物第一、全第二 |
| 卷之四 | 爬蟲、魚類一覽 | 一冊 | 動物第三 |
| 卷之五 | 多節類一覽 | 一冊 | 全第四 |
| 卷之六 | 多肢類、柔軟類一覽 | 一冊 | 全第五 |
| 以下鑛物之部 | 追次開版 | | |
| 目錄終 | | | |

博物教授書卷之一

第

博物圖

丹後 片山淳吉
 飛騨 中邨健藏
 東京 小野職慈



博物教授書 第一回序言 天長

凡植物ハ、通常根幹ヨリ枝葉ヲ生ジ、花ヲ開キ實
ヲ結ブ、其種類最多シト雖モ、之ヲ四部ニ大別ス
其一ヲ外長部ト名ク、新質外ニ生スルト、梅柳等
ニ於ルガ如キヲ云フ、其二ヲ内長部ト名ク、新質
内ニ生ズルト、椶櫚百合等ニ於ルガ如キヲ云フ、
其三ヲ上長部ト名ク、新質節ヲ逐テ生ズルト、木
賊シダ等ニ於ルガ如キヲ云フ、其四ヲ通長部ト
名ク、全體ノ新質、同一ニ生長スルト、海藻蕈等ニ
於ルガ如キヲ云フ、
此四類ヲ概算スレバ、外長部ノ植物最多種

テ、内長部ハ其三分ノ一ニ過ギズ、上長部ハ二
部ハ、僅ニ十分ノ二三ナルノミ、今爰ニ專ラ外長
内長二部ノ花葉根幹ニ就テ、其形状并ニ名稱ヲ
略記シテ示ス、
植物ノ花葉ハ、猶動物ノ肺胃ト、生殖諸器トノ如
シ、則花ハ萼瓣心鬚ヲ具ハテ、外ニ艷態ノ顯ハシ、
内ニ芳香ヲ吐ク、其形状百般ニシテ、分屬ノ微大
リト雖モ、コトヲ概論スレバ、皆生産蕃息ノ資ヲ
始ル處ナリ、
葉ハ組織皆聚胞體ヨリ成リ、通常緑色ヲ具シ、其

植物學概論 卷之三 葉

紋理ノ疎密ナラズ、面背共ニ無數ノ孔穴
 テ呼吸ノ機關ヲ具フ、其面ナルハ蒸發孔
 自然ノ妙用ト、太陽ノ熱トニ因リテ、清氣ヲ吐出
 シ、其背ナルハ吸收孔ニシテ、炭酸氣ヲ吸收シテ、
 全體ノ養物ヲ資ル、此ニ孔ハ、皆ニ呼吸ヲ主ル
 ミナラズ、亦能ク資養ノ液ノ釀シテ、以テ花實ヲ
 生熟セシム、
 根ハ直根横根或ハ圓塊等アリ、多クハ地中
 入りテ、光線ニ觸ルニテ、トマ思ハ、氣管液管
 機アリテ、其效用ニ端ニ分ル、ハ樹ノ幹ヲ維持

シ、ハ上中ヨリ養液ヲ吸收シテ葉片ニ傳ヘ多
 量ノ養氣ヲ洩シ、又下降シテ全體ノ新質ヲ生育
 スルニ主ル、
 幹ハ根上地ヲ出デタル植物ノ本體ニシテ、水ニ
 幹ト云ヒ、草ニ莖ト云フ、コレ分枝生葉開花結實
 等ノ因テ起ル處ナリ、
 以上四部各其效用ヲ異ニス、然レトモ其本來ノ
 性質ヲ論スレバ、動物ト甚ダ異ナルトシ、其
 形狀等ニ至リテハ、各名稱一ナラズ、今其著シキ
 モノ若干ヲ舉ゲテ、植學入門ノ階梯トス、

博物叢書 卷一 天梁館

明治六年第十月

文部省

小野昭然 校
久保弘道 校
加藤竹齋 畫
上中

全葉之形

○草木ノ葉片ニ於ケルヤ千態萬狀ト雖モ
植學家全葉ノ形ヲ以テ其種ヲ分ツテ左ノ
如シ、此篇ハ單ニ葉形ノ名稱ヲ略解スルニ
過ズ、故ニ其說第二圖以下ノ如クカラス、

十全葉



○十全葉トハ、脈アリ、托葉アリ、テ十分ニ全キヲ云ス、
如キ是ナリ、

細長披針狀



○細長披針狀トハ、形ハ、
ニ似テ細ク長キモ、
即チ柳ノ葉此類ナリ、

選者云
原國中
藤ヲ缺
漏ス後
改ム

博物叢書卷一 天梁館

披針狀

モ、桃



○披針狀トハ披針ノ形ニ
類似スルモノヲ云フ、即チ桃
ノ葉竹ノ葉ノ如キ是ナリ、

楕圓 グミ



○楕圓トハ小判ノ形ニ似
タル者ヲ云フ、水半夏北五
カッラ 味子ノ葉稍其趣一フセリ、

卵形

ケンボナレ

枳椇



○此圖ノ葉
形ハ幾ドたまこニ似タル
ヲ以テ卵形ト名ヅク、

匙狀

サシオモダカ

水澤瀉



○匙狀トハ略匙ノ形ニ似
タルヲ云フ、和名さしおも
だかト呼ブモ其形ノ似夕
レバナナリ、

倒蛋形

カマヅカ



○葉ノ形
上廣ク下稍細クシテ、幾ド
卵ヲ倒マニ立タル態アリ、
故ニ倒蛋形ト名ヅク、

楔狀

ユブシ



○楔狀トハくさびノ形状
ニ似タルモノヲ云フ、

辛夷

箭頭狀

クワヤ 慈姑



○矢ノ根
ノ形ニ類
似スル者ヲ箭頭狀ト名ヅ
ク、慈姑ノ葉ヲ類是ナリ、

耳形

クハズイモ



○此圖ノ葉ノ
如ク下邊タレラ其形略耳
形ト云フ、

鎗頭形 イハオモクカ

○鎗ノ頭
ニ似タル葉ヲ



鎗頭形ト云フいはねもた
かノ葉ノ如キ是ナリ、

銳尖卵形 カクアヂサイ

○銳尖卵形トハ卵圓形ニ
シテ葉頭スルドク尖リタ
ル者ヲ云フ、



長楕圓 タラエフ

○前ニ出タル楕圓形ノ長
キモノヲ長楕圓ト名ヅク



歪頭楕圓 シウカイダウ

○秋海棠
ノ葉ノ如ク
楕圓ニ似テ葉頭斜ナルヲ
歪頭楕圓ト云フ、



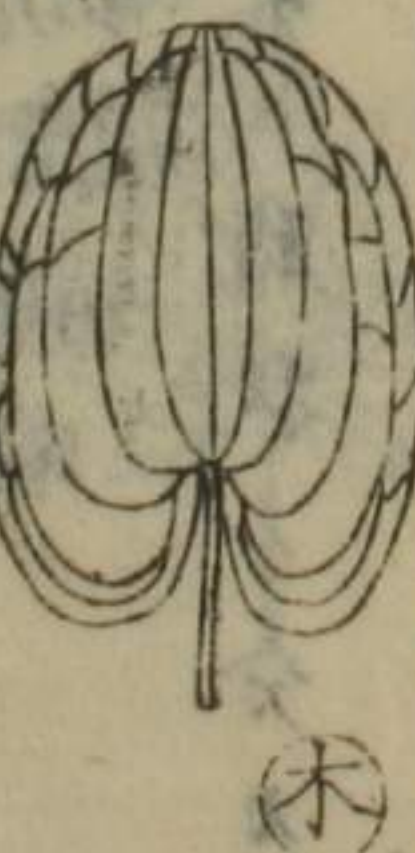
心臟形 ガ、イモ

○心臟形トハ
略ハ人體ノ心臟ニ似タルヲ
以テ其名トス、



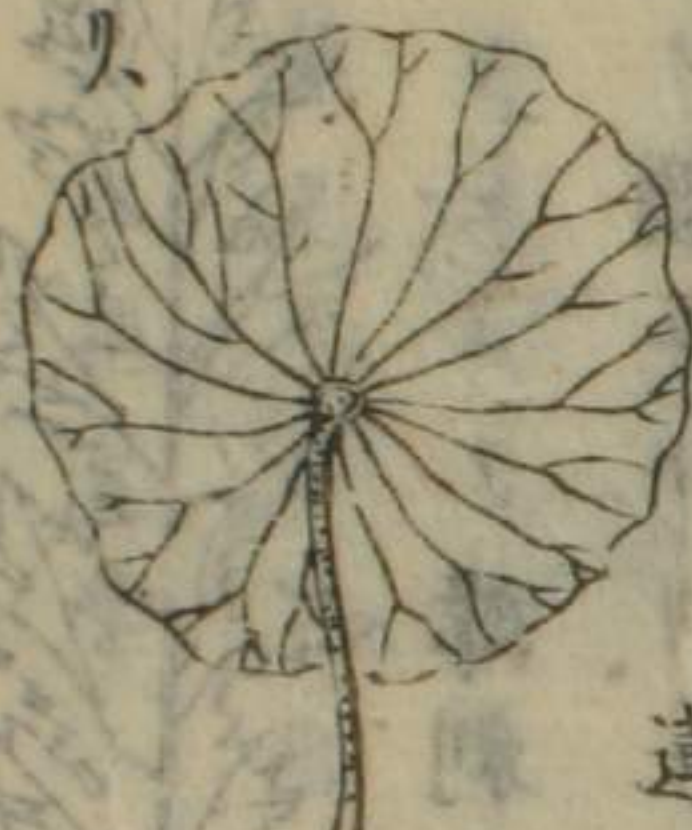
腎形 カンアフヒ

○腎形ト云
フモ葉ノ形
腎臟ニ似タレバナリかん
あふひ并ニ土芋ノ類ナリ、



笠形

○圖ノ如
ク葉ノ形
笠ニ似タリ、
故ニ此類ヲ笠形ト名ヅク、



稜頭 タウハゼ

○ひさノ形ニ
似タル葉ヲ名ヅケテ稜頭



縁刺

アザミ

薊



○葉ノ縁

ニどげ多キモノヲ縁刺ト名ヅク薊ノ類是ナリ、

鱗状分岐

ヌルデ

鹽膚木

(木)



○鱗状分岐トハぬるてノ

葉ノ如ク鱗状ノ分レ裂ケ

タルモノヲ云フ、

鱗状

カシハ

榊



○鱗状トハ魚ノひれニ類似スルモノヲ云フ、

重分鱗状

ネム

合歡

(木)



○ネムノ葉ハ鱗状ノ分カレタル者重シレリ故名ヅク、

分鱗状

エンドウ

豌豆

掌状

トチ

七葉樹

○前ニ言フ



鱗状葉ノ分カレ出ヅル者ヲ分鱗状ト名ヅク、

○トチ并

ニ木通ノ葉ハ



たるごころ形ニ類似ス故ニ掌状ト云フ、

抱莖葉

ホトギス

油點草



○此圖ノ

葉ノ如ク莖ヲ抱キテ生ズル者ヲ概シテ抱莖葉ト云油點草、南柴胡ノ類是ナリ、

穿貫葉

○穿貫葉



獨用將軍

トハ莖ノ葉ヲ貫キタル者ヲ云フ和名ニつさほきさうト呼ブモ亦其故アリ

車輪葉

ヤハムグラ

猪殃々

扇骨葉

ヒアフギ

泉十



○多葉相對
シテ生ジ輻ノ轆ルガ如キ
者ヲ車輪葉ト云フ、

○數葉抱合
シテ恰モ扇骨ノ趣アリ、故
ニ扇骨葉ト名ヅク

對生葉

ウツギ

波疏

五生葉

ウメ



○兩葉正シク相對シテ生
ズル者ヲ對生葉ト云フ、

○五生葉トハ
梅ノイトク葉ヲ分ツニ相
對セズシテ、數葉五ニ生ス
ルモノヲ名ヅク、

三裂葉

スハマサイレン

獐耳
細辛

三尖葉

フウ

楓



○此葉ノ如ク
三ツニ裂タルモノヲ三裂葉
ト名ヅク、

○葉頂三箇ニ
尖レルモノヲ三尖葉ト云
フ、楓葉ノ如キ是ナリ、

羽扇狀

ヤツデ

八角
金盤

三集葉

カシ

睡菜



類ハ葉ノ形ヲ羽扇ニ似タリ、
故ヨリ羽扇狀ノ名アリ、

○三箇ノ葉片
集リテ一所ニ生スルモノ
ヲ三集葉ト云フ、

博物叢書卷一

五

天保

博物考書卷一
 植物考書卷一
 齒

三出葉

ウマコヤシ 首着



草

重三出葉

ヲダマキ 稗子菜



草

○三出葉トハ
 首着ノ葉ノ如ク三所ヨリ
 出テ、一柄ニ着クモノナリ、

○重三出葉トハ三出葉ノ
 重リ生ズル者ナリ、即チ方
 まきノ葉ノ如キ是ナリ、

葉端之形

○如葉ノ如ク



○葉ノ周
 邊ニ
 缺刻
 有ル者
 ア

○此葉ノ如ク
 縁ニ
 切れこ
 ん、ア
 ルモノ
 ナリ



○此葉ノ如ク
 縁ニ
 切れこ
 ん、ア
 ルモノ
 ナリ

全邊

ヒクコク



○葉ノ周邊毫シモ、きこ
 みナキ者ヲ全邊ト稱ス

缺刻

ヲナモシ



泉耳 草

○此葉ノ如ク
 縁ニ
 切れこ
 ん、ア
 ルモノ
 ナリ

鈍鋸齒

ブヤ



山毛櫨 木

○葉ノ縁鋸齒
 ノ如ク其齒リキ鈍ク
 レテ
 尖ラザル者ヲ鈍鋸齒ト云
 フ、山毛櫨ノ葉即チ此類ナリ

齒牙

ワレモカフ



地榆 草

○此圖ノ如キハ葉端恰
 牙ニ似テ尖レリ、因テ具名
 ノ起ル所ナリ

博物考書卷一
 六
 葉

鋸葉 ニレ

○ニレ、ノ葉ノ



榊 (木)

周邊幾ト鋸齒ノ如シ、故ニ此類ヲ總テ鋸葉ト名ヅク、

重鋸齒

サクラ

○さくら、ノ葉ノ如キハ



二重ニ鋸齒アルモノナリ、因テ重鋸齒ト云フ、

葉尖之形

○葉ノ頭



アリ即左ノ如シ

○就テ名ヲ設ケタルモノ



鋭尖頭

イ、ギリ

桐

○鋭尖頭トハ



い、ぎりノ葉ノ如ク、其頭鋭ク尖リタル者ヲ言フ、

微尖頭

クメキ

櫟

○櫟ノ



葉ニ於リルガ如ク、其頭微シク尖リ、タルヲ微尖頭ト名ヅク、

鋭頭

シラカシ

麩楮 (木)

○葉尖ノ鋭トモテ、ノ鋭頭ト名ヅク、



并ニ柯樹ノ葉、此類ニ属ス、

鈍頭

スカシホ

酸模 (草)

○鋭頭ニ反シテ葉尖ノ鈍キモノヲ鈍頭ト云フ、



凹頭

ハカマカツラ

鱗甲花

○凹ノ字ノゴ

トク葉頭ノく不ミタル者
ヲ凹頭ト稱ス、



内外二部ノ區別

○内長部外長部ヲ區別セシガ為ニ、其材

ト種子トヲ 掲示シテ、其徴候ヲ知ラシ

ムルノ左ノ如シ、

外長部

摺ノ材



横截ノ圖
双仁

内長部

撥ノ材



横截ノ圖
單仁

外長部

每歳一層ノ新木質ヲ外ニ生ズルガ故ニ輪層ノ見ルベキ

レテ輪層ヲ増ス、故ニ其層數ヲナシ然レ其年數ヲ知ラシ

驗スレハ木生ノ年數ヲ知ルト欲セバ長若干ヲ度レハ則

ニ、又必ス双仁ノモノナリ、得ル所アラシ又必、單仁ナリ、

原選者
云双仁
ノ兩箇
ニ相別
ル、ハ
層、ハ
誤、リ
後、之
改、ハ
ミ

根塊之形

○根ニ數様アリ鱗根ト云ヒ球根ト云フ
等ハ皆其形大ニヨリテ名ツクルノミ
即左ノ圖ヲ見テ之ヲ知ルヘシ

鱗根

ユリ

百合



○百合根ノ如ク
瓣多ク竝ビ重リテ稍魚鱗ニ
類似スル者ヲ鱗根ト名ツク

球根

スサキ水仙



○球根トハ根ノ
形ヲマリニ類スル者ヲ云フ
即水仙ノ根ハ略之ニ似タリ

集合塊根

ラニヒンドウ
天門冬



○此圖ノ如ク塊
根ノ集ル者ヲ集合塊根ト名
ヅク即天門冬ノ根此類ノリ
平圓根ト云フ即燕菁ノ根ハ
シテ扁ナル者ヲ

平圓根

燕菁



塊根

ジャカタライモ
馬鈴薯



○此根ノ如ク塊ノ累マトシ
テ分生スル者ヲ塊根ト稱ス
ノ之ヲ匍匐根ト名ヅク

匍匐根

ヘイチヂョ



每蛇

圓錐形 ニンジン 胡蘿蔔



○圓錐形トハ形圓ク

シテ長ク其一端銳ク尖ル
胡蘿蔔ノ如キ是ナリ

紡錘形 フダンサウ 菘菜



○紡錘形トハ菘菜ノ根ノ如ク
クつむノ形ニ似タルヲ云フ

單花之形

○草木ノ花ヲ大別シテ單複ノ二種トス
一花ヲ生ズル者之ヲ單花ト云フ
數花ヲ生ズルモノ之ヲ複花ト云フ

輻狀 ウメ 梅

○花瓣正シク、輪



様ニ出デ、幾ト車軸ニ申輻ノ
轆ルガ如シ、故ニ之ヲ輻狀ト
稱ス、梅桃等ノ花即是ナリ

十字形 ダイコン 菜菔

○此圖ノ如キ



ハ花瓣四出ニシテ十字ノ
如ク因テ十字形ト名ヅク

盆狀 オシロイバナ 紫茉莉



○盆狀トハ花筒圓長ニシテ
瓣端短ク平面ニ開キ、其狀稍
花束臺ノ如キヲ云ス

蛾形 エンドウ 豌豆



○豆類ノ花ハ皆蠶蛾ノ形ニ似タルヲ以テ
之ヲ總稱シテ蛾形ト名ヅク

原圖中
鐘狀ノ
二字ヲ
缺ク者
アリ

漏斗狀

タバコ

烟草

○花ノ形稍ヤ



漏斗ニ類スル者ヲ漏斗狀ト云フ、即烟草ノ花ノ如シ、

石竹形

セキチク

石竹



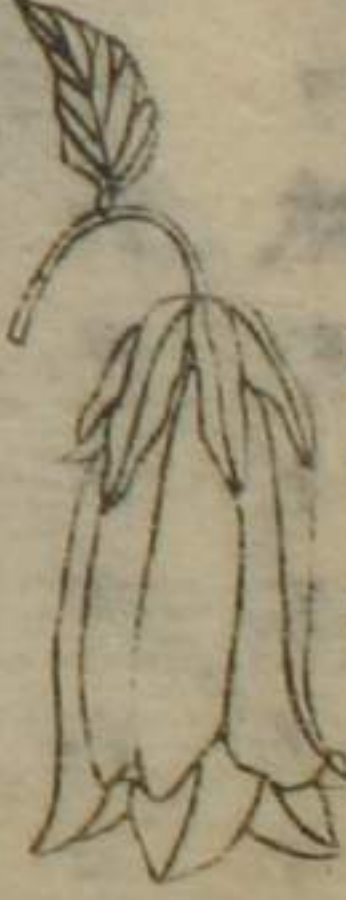
○石竹ノ花ニ似タルモノハ、皆之ヲ石竹形ト名ヅク、

鐘狀

ホタルフクロ

紫宮花

○花容鐘ニ



似テ下垂スル者之ヲ鐘狀ト名ヅク、紫宮花ノ一名ヲ俚俗ツリガね花ト云ハヨク當レリ、

百合形

ユリ

百合



○此花ノ形ニ類スル者ヲ概シテ百合形ト云フ、

唇形

紫蘂

○此圖ニ於ルガ如ク、



花口ヲ開ケバ其瓣端略唇ノ形ニ幾シ、故唇形花ト名ヅク、

複花之形

○一莖又一枝上ニ數梗ヲ分テ花ヲ開ク者或ハ
莖上ニ數花ヲ聚成ニ或ハ一苞内ヨリ數梗
ヲ分出スル者等アリ之ヲ概シテ複花ト云フ

博物志卷之十一
 花部
 花類

傘形花

○花梗分出



サクラ

○花梗分出
 シテ傘ノ形ニ似タル諸花ハ
 之ヲ傘形花ト稱ス、さくらノ
 花ノ如キ即是ナリ、

複傘花

○傘形花



胡蘿蔔

ノカサナリ出ル者之ヲ複
 傘花ト云フ、にんどんノ花ノ
 如キハ皆此類ナリ、

聚傘花



シモツケ
 繡線菊

○傘花ノ聚リ開クモノヲ名
 ズケテ聚傘花ト云フ、

傘房花



ヤブガラシ
 烏菘草

○傘形花ノ房
 ヲナシテ開クモノ之ヲ傘房
 花ト稱ス、烏菘草ノ類是ナリ、

總狀花



紫藤

○花ノ形參
 差トシテ下里ニ幾トおけまき之ヲ穗狀花ト名ズク、即車前
 ノ如シ、故ニ總狀花ト名ズクノ花ニ於ルガ如シ、

穗狀花



オ小バ、車前

葉黃花



ハレバニ
 榛

○猫尾ノ如ク下
 垂スル者之ヲ葉黃花ト云フ、シテ小花ノ聚成スル者ヲ云
 フ、蒲公英ノ類即是ナリ、

小頭花



タンポポ
 蒲公英

博物志卷之十一
 土
 花類

博物考書卷一
五

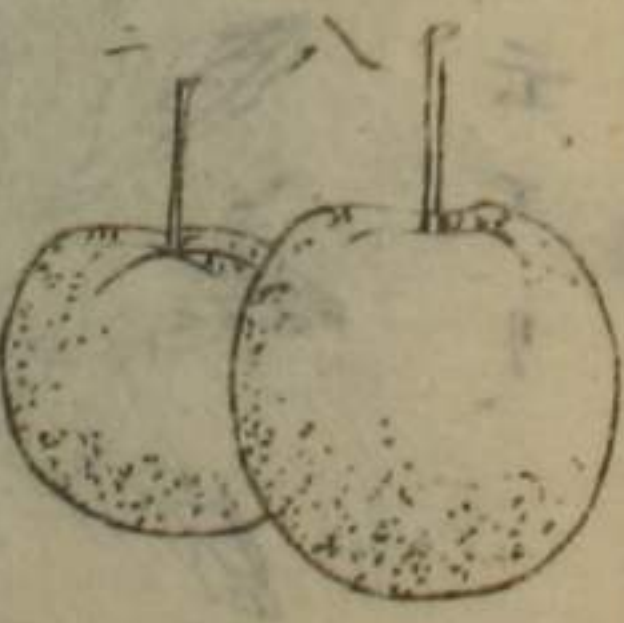
第二

博物圖

果實ハ其味或ハ甘或ハ酸其ニ天然ノ美味ヲ具
 ヘテ多クハ之ヲ生食シ暑熱ノ渴ヲ醫シ人身ニ
 滋養ノ効アリ殊ニ柑類ハ腐敗スルコト遅クシ
 テ年ヲ越エベク棗柿梅杏葡萄ノ如キハ乾カシ
 テ久ニ貯スベク榛栗胡桃椰子银杏ノ如キハ
 貯フルニ勞ナクシテ能ク久キヲ保ツベシ又梅
 ヲ塩醃シテ白梅トナストキハ數年ヲ經ルトイ
 ヘドモ其色味變ズルコトナシ諸果皆糖藏スベ
 シト雖モ其最良ナルハ檸檬ヲ以テ第一トス
 蒺藜ハ一年生ノ草本茄子ヲ除ク外皆蔓草ナリニ結ブ所ノ果ニ

博物考書卷一
五

〇隨處ニ多シ
 入梅ノ候果熟
 ス味極メテ酸
 自梅又糖梅トナレテ久貯ス、
 ト云アリ越年尚貯フベシ、
 批把
 〇東南諸國ニ産
 七八月黄熟ス
 味甘酸一種たうびと云ア
 リ果稍大ニノ康ノ形ヲナス、
 食スベシ之ヲかき之餅ト云、
 小野職熱水撰具



〇四月花ヲ開キハ
 月熟ス多漿甘味
 〇秋月黄熟
 ス味酸澁香氣アリ、降霜後果
 ノ碎キ核ヲ去リ糖ヲ和シ煮
 〇四月花ヲ開キハ
 月熟ス多漿甘味
 〇秋月黄熟
 ス味酸澁香氣アリ、降霜後果
 ノ碎キ核ヲ去リ糖ヲ和シ煮

桃

○種類多シ之ヲ
概シテ二種ニ分
ツ、早熟ノ者ヲ夏もハト稱シ
晩熟ノモノヲ秋めト云



油桃

○桃ノ種類ニ
シテ果ノ表面毛
茸ナク稍後レテ熟シ赤色光
輝アリ味甘酸



榲桲

○東北ノ諸國ニ
園養、春月花アリ
秋月熟ス、味酸澁、降霜ノ後澁
味減少レテ食スベシ、



楊梅

○東南海濱ニ
多シ秋月果
熟ス、味甘酸、一種
志ろやまもト云アリ、



杏

○入梅ノ後果
熟シテ紅黄ト
ナリ味酸微甘シ、核ヲ去リ乾
藏スル者ヲ干杏云ト云、



李

○尋常ノ者ハ熟
メ赤色白粉ヲ帯
ブ、一種志ろやまもト云アリ
黄白色ニメ甘味殊ニ多シ、



櫻桃

○春月花ヲ開キ夏月熟ス、其
色鮮赤ニシテ光輝アリ味甘
酸、



石榴

○暖國ニ多
シ初夏花ヲ
開キ秋月熟ス、味酸、兒童
採テ之ヲ食用ス、



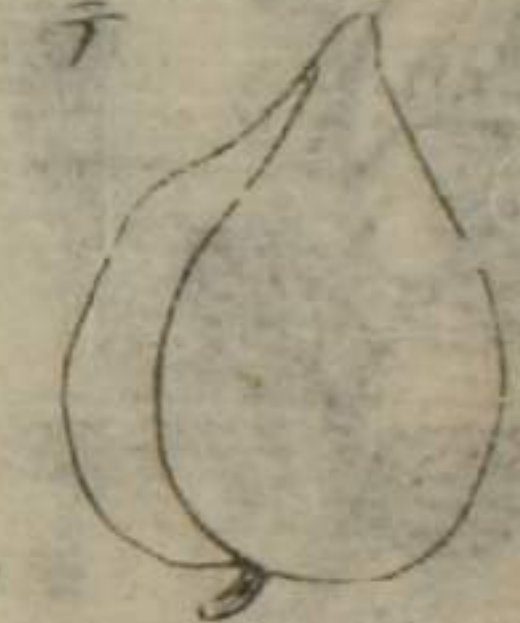
トガリスモ、

○又ちだんきょう

ト名ク、李ニ後レテ

熟シ、多漿甘味ニシテ微シ酸ヲ

帯ヒ果中ノ佳品ト云ヘシ、



林檎

○春月花ヲ開キ

秋月熟シ味酸甘、

一種ハ子りんダト云アリ、赤

面紅色ニシテ寝美觀ナリ、



種類多シ隨地ニ産ス、夏月

黄熟シテ味甘酸、

○ハナハ、



○夏秋ノ間黄

熟ス味酸甘前

條はらいちこ

ニ優



水半夏

○夏月熟ス赤色ニシテ小白

點アリ味酸澁

微甘ナリ



野水瓜

○常綠ノ蔓本ニシテ北地ノ

深山ニ多シ秋月熟シテ

破瓜ニ味

頗ル甘シ



無花果

○秋月熟シ外

面紫色ニシテ内

部淡紅ナリ味美甘食スヘシ

一種古名いちじくと云アリ、



葡萄

○甲州ヨリ産出ス

ルヲ上品トス、陰乾シテ貯フ

ベク、或ハ醸

熟シテ酒

ヲ製ス、

十五 天樂館

撰者云
橘ハ橙
ノ誤ナ
リ

柑

○純州雲州ノ産
ヲ佳トス、香味世
人ノ知ル所ナリ、且以下ノ柑
種属ハ概子暖地ノ産タリ、



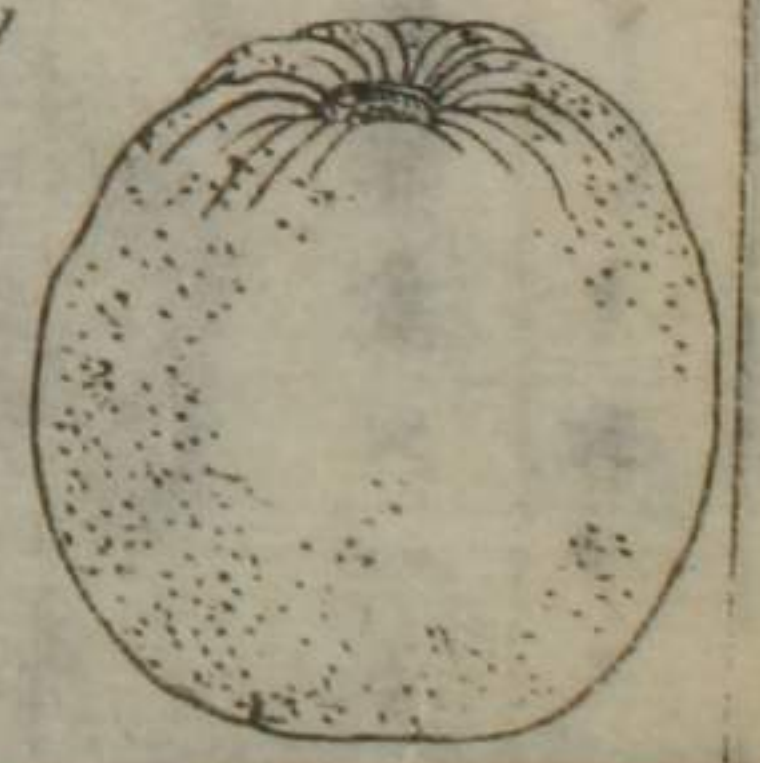
香橘

○暖地ニ産シ
美味佳香アリ
皮ヒ亦食フベシ、



朱欖

○四國九州ニ
多シ小春ノ候
黄熟ス、味酸ニシ
微甘アリ糖ニ和シ食フベシ、



金橘

○冬月黄熟シ
味甘酸、糖密ニ
藏シテ久貯スベシ、



金東

○記ニシテ類
前條ニ全
シ



佛手柑

○冬月
黄熟シ
佳香アリ
味甘クシテ稍酸シ、



枸櫞

○冬月熟シテ
黄色香氣前條
ニ等シ、未熟ノ
者ヲ採リ糖菓トナスベシ、



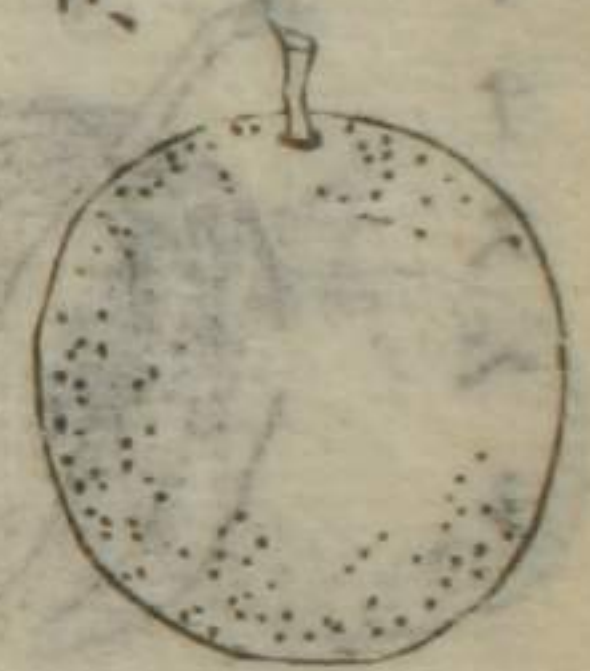
柚

○十月熟シ鮮
黄色ニシテ香
氣アリ、味極メ
テ酸ク生熟共ニ食スベシ、



回青橙

○黄熟ノ時前
條ニ同シ味酸苦
汁液ヲ搾リ糖水ニ和ノ飲バ
消食機ヲ補ク又皮ヲ藥トス



猴橘

○前條ニ同ジ
十月熟ス酸味
殊ニ多シ



包橘

○柑ニ先チテ
熟ス其色淡綠
淺黄ニシテ酸
味アリ



柿

○種類多シ
九月熟ス味ノ
美甘ナルハ人
ヲ知ル所ナリ



○前條ノ一種ニシテ濃州

蜂谷村ノ名産
ナリ熟シテ多
量甘味アリ



棗

○九月熟ス
紅色ニメ味甘シ
一種をグをのめト云アリ共
ニ日ニ乾シ藥用ニ充ツベシ



桑

○秋月熟シ
深紫黑色ニシテ
味甘酸此葉ヲ以テ蠶ヲ養フ
トハ兒童モ知ル所ナリ



榎

○核ヲ碎テ
仁ヲ捺リ糖ヲ以
テ衣トナシ茶菓ニ供ス生
ナル者ハ滋味多シ



胡桃

○種類兩三種アリおもむるみ
ひめぐるま等茲ニ圖スル者ハ花舟なるま
ニノ一般ニくるみト名クル者ナリ、其むろ
ぐるまト稱スル者ハ殻稍軟ニノ仁ヲ得ル
ト易シ、普通ニむろぐるまト呼ブ者是ナリ、



枳椇

○降霜ノ後ニ
熟ス黒褐色ニ
ノ味甘ナリ、其名蜜六曲ト云
モ形ト味ノ甘キヲ以テナリ、



榛

○九月熟ス
仁ヲ採リ食
フベシ、又一種
あふちハミト云アリ、



椰子

○伊豆八丈
等ヨリ産出ス
ル者ヲ上トス、炒リ
食フヘシ味美ナリ、



マテバ、シヒノミ

○諸國暖地ニ産ス前條ニ
同シク炒リ食フベシ、
味椰子ニ劣レリ、



栗

○九月熟ス
丹波甲斐等ヲ
名産トス、其味ハ
人ノ知ル所ナリ、



シバグリ

○前條ノ一種
ニシテ實小ナリ、
蒸シ乾シ外皮ヲ去ル
者ヲかちぐりト云フ、



銀杏

○多肉ノ外皮
アリ内ニ白色ノ
核ヲ收ム仁ヲ採リ
食フベシ味佳ナリ、



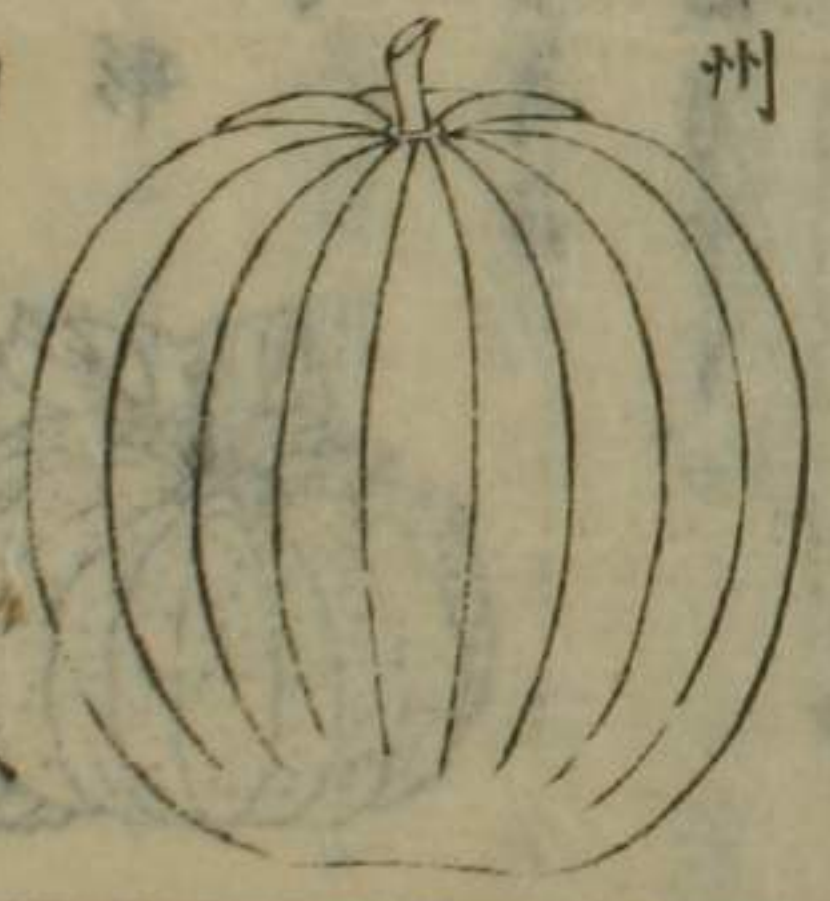
○以上ニ掲載スル諸果ハ總テ水本ニ生スル
品類ニシテ素ヨリ日用ノ食餌ニアラス
イハドモ常ニ救食ヲ補助シ民生ヲ滋養ス
ル効アリ且ツ以下ニ列スル者ハ皆草木
ノ果物ニ係ルモノナリ、

蔬果類

○此類ハ菜圃ニ培養スル草本ノ果物ニシテ生食
或ハ熟食スベキモノ多ク大抵蔬菜ニ充ツベキ
日用ノ品類ニ係ル

西瓜

○八月熟ス相州小田原又總州
千葉ノ邊ヨリ作出ス多漿甘味ナリ一種
名^スカ^クト呼フ者アリ漢名明月瓜ト云
フ若シ^ス煙^シ脂^シノ衣服ニツキタル^ルアラバ
之ヲ去ルニ此子ヲ用キテ清淨ヲ得ルノ効アリト云フ、



撰者云
瓜ハ扁
薄、誤
リ改ム
ミ



瓜メロン
○七月熟ス長サ二
三尺生熟共ニ緑色嫩ナル者
食フハ勢州産ヲ佳トス其他
處々ヨリ出ヅ夏月晴天ヲトシ
薄ク削リ日乾スル者ヲかんべイ
ト稱シ漢名瓠畜ト云フ

博物志卷一 二十 天竺瓜

菜瓜マルクワリ

○七八月熟
武州浮田其
他處々ヨリ出ヅ外面緑色ニ
ノ皮稍硬レ塩蔵シ食フベシ
テ液ナリ



金鷄蛋ヒヨウタマゴ

○形正圓或ハ微扁ノ者アリ
秋月熟シ味
略甜瓜ニ似



甜瓜マクハウ

○八月熟ス濃州
真桑村ニ名産アリ又
東南地方ヲ上トス一種きんぎょ
ト云アリ形大ニノ味劣レリ
地ニ因テ優劣アリ



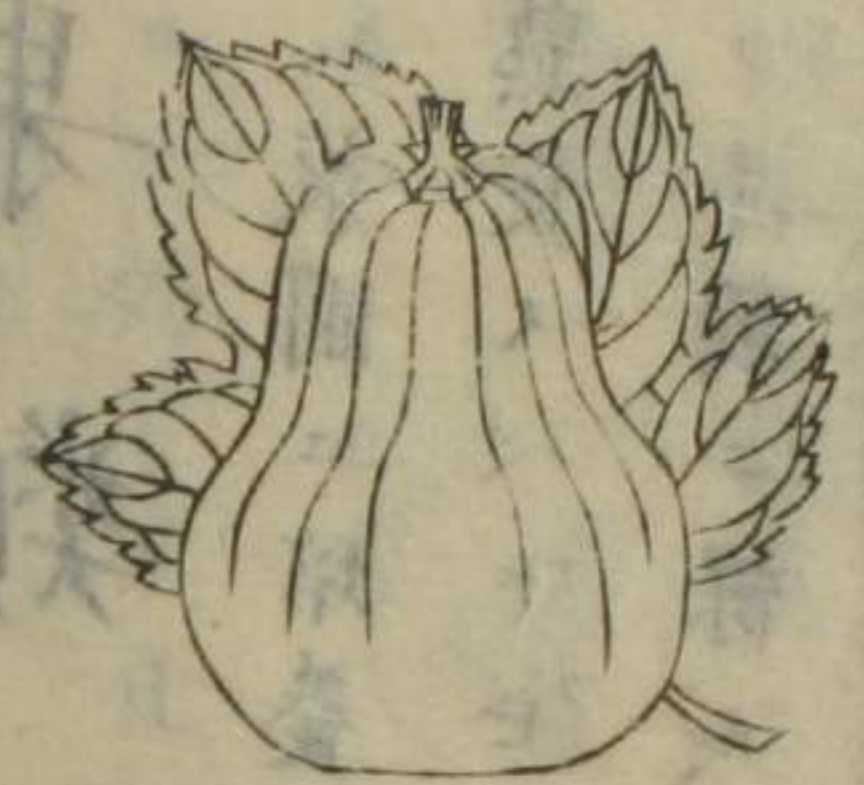
南瓜タウモロコシ

○秋月熟シ形
大小アリ均一
ナラズ味モ亦産



番南瓜カボチャ

○前條ノ
種ニシテ形
略圖ノ如シ
熟シテ黄色味南瓜ニ劣ル



越瓜シロウリ

○胡瓜ニ後レテ
熟ス形状人ノ知
ル所ナリ生熟共ニ食フベク
又糟蔵塩蔵トナシ貯フベシ



本草綱目卷一
瓜類
天保
全

胡瓜 キウリ



○武州砂村
邊ヨリ作出ス
ル者上品ナリ、其他處々ヨリ
出ヅ生食或ハ塩蔵シ菜トス、

絲瓜 ヘチマ



○瓜ノ嫩
ナル者食ッ
ベシ、熟スル者ハ網絲ヲ取テ
海綿ノ代用ニ供ス、

苦瓜 ツルレイシ

○外皮鮮黄色ニシテ熟スル時
自裂シ内ニ其味ノ紅肉アリ、未熟
ノ者ハ煮テ食フベシ、一種ふぐせいの
ト云フヤノアリ九州邊ニ多シ、



○城州葛野郡山内村ノ産ヲ上品
トス、其他諸國ニ多シハ九月ノ間
熟シ味淡薄ナリ煮食スベシ種子ヲ
乾カシ藥用ニ供シテ利水ノ効アリト云フ、



キントウグワ



○九月熟シ
經霜後外面
紅色トナル、生熟共ニ食フベ
シ味南瓜ニ似テ劣レリ、

蒲蘆 ヘウラク



○加賀越後
ノ産ヲヒト
ス味苦クシテ食フベカラズ
日乾シテ酒器ヲ製スベシ

博物叢書卷一 壬 天保館

茄

○形状各種アリ尋常ノ者ハ人々知
ル所ニレテ一種あるまじト稱スル
者アリ日州佐土原ノ産ヲ上トス故ニ
きんちやくをす等



博物教授書卷之一終



長命晏春 書 高木春園

第一博物圖教授書中ノ字引

| | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 序言部 | 植物 | 根 | 幹 | 枝 | 葉 | 花 |
| 實 | 種類 | 外長部 | 節 | 葉 | 葉 | 葉 |
| 通長 | 新質 | 椶櫚 | 百合 | 節 | 節 | 節 |
| 全体 | 海藻 | 蕈 | 四類 | 節 | 節 | 節 |
| 名稱 | 畧記 | 動物 | 肺 | 胃 | 胃 | 胃 |
| 生殖諸器 | 百股 | 分屬 | 心 | 鬚 | 鬚 | 鬚 |
| 芳香 | 聚胞体 | 呼吸 | 紋理 | 概論 | 概論 | 概論 |
| 生産蕃息 | 孔竅 | 機関 | 蒸發孔 | 吸收孔 | 吸收孔 | 吸收孔 |
| 無數 | | | | | | |

字引ノ一

博物教授書卷之一

植物學辭書 卷一 二二三

炭酸氣 吐出 資養 液 醱 生熟

直根 橫根 圓塊 光線 綱 忌

氣管 液管 兩機 效用 二端 維持

養液 多量 油 下降 總體 生育

本体 莖 分枝 生葉 開花 結實

性質 若干 楷梯 葉柄 抱葉 腺

淺解部 十全葉 葉尖 葉片千態萬狀 趣 卵形

總管 細管 披針 楔 箭頭 耳

細長披針狀 倒蛋 態 披針 橢圓 箭頭 耳

匙 銳尖 歪 斜 心臟 人體

腎 莖 稜 緣刺 鱗 裂

重分 分齶 掌 抱莖葉 南柴胡 抱合

穿貫 車輪 輻 轉 葉頂 羽扇 三集

對生 互生 三裂 葉尖之形 周邊 缺刻 鉤鋸齒

三出 葉端之形 鋸齒 內外二部之區別 銳尖

齒牙 微 四 葉尖之形 內外二部之區別 銳尖

材 種子 揭示 徵候 一層 輪層

層數 驗 根塊之形 數樣 鱗

字引ノ二

博物叢書卷一 二二三

植物學辭書

植物學辭書

辨ヒラ 魚鱗ウラ 毬ニタリニ 集合塊一 平圓一

圓ナシ 扁ヘン 疊々ツチ 匍匐一 漸次 蔓延

圓錐 紡錘 單花之形 輻 盆 花筒

輪樣 車軸 車輻 輻 盆 花筒

瓣端 花束臺 蛾 蠶蛾 總稱 漏斗

煙草 鐘 花容 鐘 蠶蛾 總稱 漏斗

石竹 百合 唇 單瓣 復花之形 下垂 俚俗

梗 花梗 萼 單瓣 復花之形 下垂 俚俗

傘形花 花梗 萼 單瓣 復花之形 下垂 俚俗

穗 菜蕒 貓尾 小頭 飛成

序言部

第二圖教授書中ノ字引 爾圖中ノ字 爾自ラ了然一 淺解中ノ

暑熱 渴 醫 果實 酸 美味 滋養 効 生食

柑類 腐敗 塩醃 白梅 糖藏 糖藏 蔗果

一年生 草本 蔓草 熟食 塩藏 煮食

食用品 器物 嫩 淨水 網狀 海綿

淺解中ノ部

異國産 隨處 入梅 果熟 糖梅 久貯

梨 多漿 甘味 種類 一種 越年

枇杷 黃熟 甘酸 棗 東南諸國

字引ノ三 事物考卷一 二十四

| | | | | | | | | |
|-----|-----|-------|-------|------|------|------|------|-----|
| 柑 | 野水瓜 | 美觀 | 石榴 | 赤色白粉 | 杏 | 椴棹 | 桃油 | 檳榔 |
| 柑種屬 | 常綠 | アハイチゴ | 暖國 | 紅粉 | 紅黃 | 園養 | 早熟 | 酸澁 |
| 香橙 | 蔓本 | 前條 | トカリスモ | 黄白色 | 核ヲ去リ | 滋味減少 | 晩熟 | 降霜後 |
| 佳香 | 破瓜 | 優 | 佳品 | 櫻桃 | 乾藏 | 表面毛茸 | 果ヲ碎キ | 糖和 |
| 金橋 | 葡萄 | 木半夏 | 林檎 | 鮮赤 | 李 | 春月 | 糖和 | 糖和 |
| 糖密 | 産出 | 白點 | 満面 | 甘酸 | 尋常 | 光輝 | 光輝 | 光輝 |
| | 内部 | 淡紅 | 内部 | 内部 | 内部 | 内部 | 内部 | 内部 |

| | | | | | | | | | |
|-------|----|------|-----|------|------|------|-------|----|----|
| 榴果類ノ部 | 輔助 | 掲載 | 銀杏 | 枳椇 | 胡桃 | 榧 | 棗 | 包橘 | 枸櫞 |
| 民生 | 諸果 | 多肉 | 黒褐色 | 黒褐色 | 核ヲ碎キ | 紅色 | 淡緑淺黄 | 未熟 | 未熟 |
| 滋養 | 木本 | 外皮 | 蜜六曲 | 一般 | 仁ヲ採リ | 藥用 | 糖菓 | 糖菓 | 糖菓 |
| 培養 | 以下 | 核ヲ收ム | 品類 | 殼稍軟 | 椰子 | 深紫黒色 | ハチヤカキ | 柚 | 柚 |
| 蔬菜 | 列 | 以上 | 食餌 | 炒リ食フ | 茶菓 | 茶菓 | 蜂谷村 | 生熟 | 生熟 |
| 係ル | 果物 | 粒食 | 梅ヨリ | 蒸シ乾シ | 普通 | 滋味 | 名産 | 酸苦 | 酸苦 |

字別ノ四
毎頁ノ下
三五
大

博物教授書卷之一 字引終

| | | | | | | |
|-------------------------|------------------------|------------------------|----------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 利水 <small>リスツセウ</small> | 苦瓜 <small>ツルレイ</small> | 薄削 <small>ウスケ</small> | 全義鳥蛋 <small>センギウダン</small> | 越瓜 <small>エロウリ</small> | 甜瓜 <small>マスマリ</small> | 西瓜 <small>スイカ</small> |
| 自裂 <small>ジレツ</small> | 日乾 <small>ジツカン</small> | 正圓 <small>テイエン</small> | 糟菽 <small>サウカク</small> | 真桑村 <small>マクハムラ</small> | 小田原 <small>オダワラ</small> | 千葉 <small>チバ</small> |
| 紅肉 <small>コウニク</small> | 瓠畜 <small>カニウ</small> | 微扁 <small>ビヘン</small> | 菜瓜 <small>サイカ</small> | 劣 <small>オト</small> | 漢名 <small>カンナ</small> | 南瓜 <small>ナンカ</small> |
| 冬瓜 <small>トウカ</small> | 絲瓜 <small>シカ</small> | 淡 <small>タン</small> | 浮田 <small>ウキタ</small> | 外面綠色 <small>ウチソバ</small> | 均 <small>ヒツ</small> | 明月瓜 <small>メイゲツカ</small> |
| 葛野郡 <small>カツノ</small> | 網絲 <small>コウシ</small> | 扁蒲 <small>ヘンポ</small> | 酒器 <small>サケ</small> | 海綿 <small>カイメン</small> | 佐土源 <small>サドゲン</small> | 清淨 <small>セイジヤウ</small> |
| 淡薄 <small>タンハク</small> | 海綿 <small>カイメン</small> | 硬 <small>カタク</small> | 優劣 <small>ウレツ</small> | 優劣 <small>ウレツ</small> | 優劣 <small>ウレツ</small> | 優劣 <small>ウレツ</small> |



文部省伺濟 明治九年四月六日
開 版同 十年七月三十日

編者 片山淳吉
版主

京都府士族

下谷中徒町壹丁目
拾三番地

發兌 書肆

東京府平民

石川治兵衛

馬喰町貳丁目
壹番地

